

# プレスリリース補足資料「エコグリーンマットシステム」

## 芝生緑化市場の概況について

全国屋上・壁面緑化施工面積調査より (平成20年4月25日・国土交通省報道発表資料)



屋上緑化施工面積は増加傾向にあり、平成19年1年間の施工面積は平成12年実績の約2倍となりました。平成12年から19年に施工された屋上緑化のうち、23.5%が芝生主体の緑化となっています。

参考 URL : 屋上・壁面緑化空間は新たにどの程度創出されたのか (国土交通省報道発表資料)  
[http://www.mlit.go.jp/report/press/city10\\_hh\\_000005.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/city10_hh_000005.html)

## 屋上芝生緑化システム「エコグリーンマットシステム」

軽量・低コストで既存の建物にも導入できます

建築基準法施工令により、屋上全面に荷重をかける場合の積載重量は1m<sup>2</sup>あたり60kgまでと規定されています。新築施設だけでなく既存施設でも屋上緑化を導入するためには、1m<sup>2</sup>あたり60kg以下の緑化システムが求められますが、「エコグリーンマットシステム」はこの基準を満たす[薄型・軽量]の屋上芝生緑化システムです。

### エコグリーンマットシステムの特徴

- ・超軽量(60kg/m<sup>2</sup>以下)
- ・低コストのシステム価格
- ・緑化による環境改善効果
- ・自動灌水システム標準装備
- ・公共建築協会評価認定品\*
- ・リサイクル素材100%の基盤

『公共建築協会評価認定品』とは  
公共建築協会は国及び地方公共団体等の公共建築物の建築事業に携わる公益法人です。評価認定品と認められることは、その製品の性能の高さを示すものとして、建築業界での指標のひとつとされています。

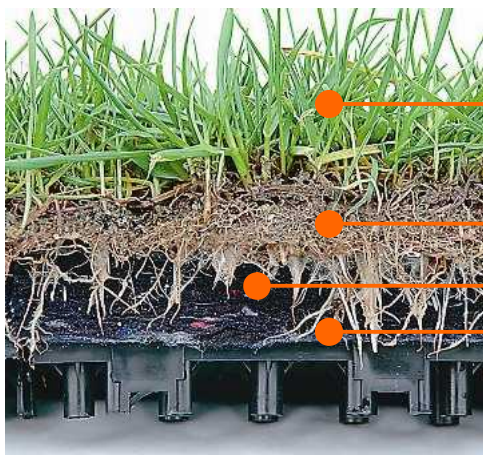


### リサイクル素材100%の「エコグリーンマット」

基盤部分のマットは、衣料廃棄物、縫製裁断屑、使用済みペットボトルやプラスチックを再利用したリサイクル素材でできています。保水性・排水性に優れており、重量は1m<sup>2</sup>で3.5kgと超軽量なため、搬入・施工も容易です。

・グリーン購入法適合品      ・エコマーク取得品

## エコグリーンマットシステムの構造



芝生

土壌

点滴式灌水ホース

エコグリーンマット

### ポイント1[エコロジーかつ高性能の基盤]

リサイクル繊維で出来たマットは、踏圧にも強く、長期にわたって植物に適した柔らかい植栽基盤を保ちます。  
また撤去や移動も可能です。建物改修時の撤去や芝生のレイアウト変更、イベント・仮設建物でも簡単に施工できます。

### ポイント2[散水管理の省力化]

定時にムラなく散水が行える自動灌水システム(点滴式灌水ホースと制御タイマー)を標準装備。水やりの手間がかかりません。

自動灌水システムの設置は必須となります

販売価格は見切り材、耐根シート、自動灌水設備費、植物を含む材工共価格となります。

## 枯れ補償の範囲について

引渡し後、補償期間内に枯損が生じた場合は、無償にて植え替えを行います。一部補償の対象外となる場合がありますのでご注意ください。

対象外となる例

- ・芝生に過度な損耗を与える遊戯、スポーツが原因の擦り切れ
- ・1日に10人以上歩行する通路となる場合
- ・適正な養生期間が確保されない場合

## メンテナンスサービスの作業内容について

除草、清掃から、枝葉の剪定、施肥、病害虫駆除、灌水設備の管理まで、緑の維持管理をまとめてサポートいたします。(原則対象地域:都心から立川市・横浜市・千葉市・さいたま市まで。)

年間作業スケジュール(参考:施工後1年間)

管理項目	年回数	年間作業計画											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1.芝生の刈り込み作業	4回程度												
2.芝生のサッチ除去作業	4回程度												
3.肥培管理・施肥作業	2回程度												
4.除草作業	4回程度												
5.目土入れ作業	1回程度												
6.病害虫防除作業	1回程度												
7.排水口、ドレイン周りの清掃作業	4回程度												
8.灌水装置の設定変更、点検作業	3回程度												

2年目以降のメンテナンスサービスは別途契約となります。